

山行番 NO. 1681
日時 2016.03.30(水)晴
山域 八ツ・横岳(2829m) 杣添尾根
コース・ 下土狩発4:00—清里—海ノ口登山口発7:00—森林限界9:45—三叉峰10:56—
タイム 横岳11:10~15—三叉峰—森林限界(昼食)12:08~28—登山口14:00—下
土狩19:00
標高差 上り=海ノ口登山口約1680m~横岳2829m=約1149m
下り= "
参加者 後藤、勝又陽(裾野麗峰)、二羽(ふたば・三島労山)、村上賀(あさぎり山の会)

この尾根は、いつ上ってもイイ、ルート

八ヶ岳連峰で、どのルートが一番好きかと問われれば、真っ先に「杣添尾根」を上げたい。標高差がまあまああり、展望に優れ、直線的で上り易いルートだからである。そんな訳で今年も、雪がある時期に再訪した。

今回は、東部ブロック有志の合同山行だった。当会のような弱小山岳会は、なかなか登山メンバーが揃わない。安全登山・経費の面から、他会との合同登山は、有効な手段と思う。

相変わらず、海ノ口別荘地は登山口まで分かり難い。Kがナビしてくれ、何とか駐車場着。平日だが、駐車場に車が一台あった。雪はこの時期としては、まあまあだろう。東面故、南面よりは多い。

例によって氷面斜面が続く。アイゼンは早めに履いた。この方が楽だ。変な意地を張っても仕方がない。快適にグングン上る。初参加のFは、やっぱり力があり、余裕の上り。紅一点Mは、ペースが合わないのか、やや苦戦。それでも頑張る。

森林限界に達し、展望が開けた。杣添尾根の左に赤岳が大きかった。県界尾根が鎌首を持ち上げていた。意外だったが、駐車場で強風が吹いていたが、上部は静かだった。



赤岳



目を凝らすと、杣添尾根上部の三叉峰に一人、取り付いていた。駐車場にあった車の主だろう。小休憩後、再び出発。三叉峰上り下で、先ほど目撃した方が下って来た。

今朝、駐車場を6時に出たという。我々より、1時間早かった訳。ラッセルの礼をいうと、「たいしたラッセルでは、なかったです」と答えた。完璧な装備を纏っていたので、容姿はハッキリしなかったが、中年の感じだった。Mは、「ベテランに見えた」の意見。

三叉峰の上りに掛かる。Mの歩きが極めて不安定。滑落すれば、マズい。途中でザイルを結んだ。これで気持ち的に余裕が出来る。

意外だったのが、三叉峰の道標で、やっと出ている状態だった。つまり3月末にしては、雪が多いのだ。思うに、厳冬期は気温が低く、雪がサラサラで風に飛ばされ、あまり堆積しない。この時期は、ベタ雪で重く、飛ばされないので堆積しやすい……。では、ないか。

三叉峰で休憩。横岳頂上に登山者が2～3名見えた。硫黄岳からの登山者のようだ。今日は平日だが、それなりに山に来ている。



三叉峰上り

三叉峰から簡単に頂上着。風がない穏やかな頂上だった。計画通り11時だった。特に雪山は、午前中に頂上着の計画でなくてはいけない。

遅くても12時頂上着で出発時間を設定する。頂上着が12時を回り、下山中、アクシデントがあった場合、雪山は日照時間が短く、救助などで問題を生じるからだ。

昼食は森林限界まで下って摂った。この時期は、日差しが強く暖かく幸せだった。真冬では、こうはいかない。昨日畑で取ったエシャレットを皆に振舞った。(甘くて)「美味しい、ウマイ」と

絶賛してくれた。

午後は下るのみ。いつもそうだが、何故か下りは長く感じる。別荘地手前でルートの間違ったが、計画通りの時間で駐車場着。イイ時間だった。温泉に入ろうと、北杜市の「たかねの湯」に寄ったが、あえなく定休日だった。平日登山の落とし穴。須玉IC近くの、タイヤ温泉にも向かったが、既に閉館だった。

食事は、以前好評だった、「坂の上ドライブイン」を利用したが、ちょっと期待外れだった。これも時代と共に変わっていた、ということだろう。

おわり



下山



横岳頂上